

Conductor: **Makoto Suehiro**

Piano: **Michael Namirovsky**

Ludwig van **Beethoven**: Piano Concerto No.4

Anton Josef **Bruckner**: Symphony No.5

2006年4月23日(日)

宮城県民会館【開場 14:30 開演 15:00】

全席自由【一般:¥1,000 高校生以下:¥500】



指揮:末廣 誠



ピアノ:ミハイル・ナミロフスキー

# 43rd Concert

仙台ニューフィルハーモニー第43回定期演奏会

# SENDAI NEW PHILHARMONIC ORCHESTRA



主催  
 仙台ニューフィルハーモニー管弦楽団  
 協力  
 仙台国際音楽コンクール事務局  
 問合せ  
 仙台ニューフィルハーモニー事務局 (Tel:022-234-0701 山路方) 仙台ニューフィルハーモニー HP (<http://sendainewphil.client.jp/>)  
 プレイガイド  
 宮城県民会館 (022-225-8641) 藤崎 (022-261-5111) (株)ヤマハミュージック東北仙台店 (022-227-8513) カワイミュージックショップ仙台 (022-221-4251) (株)三立仙台本店 (022-265-6211)  
 後援  
 宮城県・仙台市・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・(財)宮城県文化振興財団・(財)仙台市市民文化事業団・河北新報社・朝日新聞仙台支局・毎日新聞仙台支局・読売新聞東北総局・産経新聞東北総局・仙台リビング新聞社  
 ©仙台放送局・TBC東北放送・仙台放送・MYKテレビ・KHB東日本放送・Date fm・せんだいタウン情報 S-style



## 指揮 末廣 誠

Conductor SUEHIRO Makoto

鹿児島県生まれ。鹿児島大学及び桐朋学園大学卒業。指揮を秋山和慶、堤俊作、H・レーグナー各氏に師事。

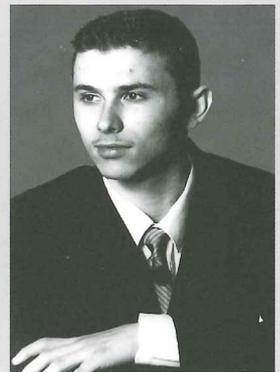
1981年、鹿児島オペラ協会10周年記念公演において、石井欽作曲オペラ『カントミ』の初演を指揮、1987年銀座にオープンした銀座セゾン劇場の柿落としにおいて、M・コンスタン作曲、P・ブルック演出の『カルメンの悲劇』を50日間に渡り指揮、各地のオペラ公演を多く手がけ、数多い作品のレパートリーを誇っている。また、バレエ公演も手がけ日本初演した作品も多く、舞台作品における技量は各界から厚い信頼を得ている。1990年、旧東ドイツ・ワイマール市で開催された国際セミナーに参加。H・レーグナー氏のもとで研鑽を積み、最終コンサートにおいてイェナー・フィルハーモニー管弦楽団を指揮、チューリンガー・アルゲマイネ紙に"真にプロフェッショナルな指揮者"と絶賛される。1991年、ポーランド・カトヴィツェ市で開催された第4回フィッテルベルク国際指揮者コンクールにおいて優勝、第1位ゴールドメダリストとオーケストラ特別賞を併せて受賞する。翌年より、ポーランド国立放送交響楽団をはじめとする各地のオーケストラに招かれ、クラコフ放送交響楽団の首席客演指揮者に就任。また国立シレジア歌劇場において『トスカ』を指揮してヨーロッパにおけるオペラデビューを果たし、以後定期客演指揮者として多くの作品を指揮し、常に高い評価を得ている。

1999年、ジャズピアノの巨匠チック・コリア氏と共演、同氏より絶大な信頼を寄せられる。また、曲目解説等の執筆活動も盛んに行っており、その軽妙な切り口の文章は評判を得る一方、演奏会の司会、企画等にもその才能は遺憾なく発揮されている。

宮城フィルハーモニー管弦楽団(現仙台フィルハーモニー管弦楽団)指揮者、群馬交響楽団指揮者を経て、1993年から1999年まで札幌交響楽団指揮者を務め、以後多岐に渡る活動を続けている。高いレベルの演奏を引き出す着実な手腕は、常に信頼と評価を得ており、今後の活動が期待されている。

## ピアノ ミハエル・ナミロフスキー

Piano Michael Namirovsky



モスクワ(ロシア)生まれ。7歳でピアノを始める。グネーシン音楽大学にて9歳でリサイタルに出演。その後イスラエルに移住し、ハイファのルービン音楽院でソフィア・ポリアックに師事。

1996年から2001年までエルヴァ・ヴァン・ゲルダー記念奨学金を得てマンハッタン音楽院(アメリカ・ニューヨーク)でソロモン・ミコフスキーのもとで研鑽を積み、音楽学士の称号を得て卒業。引き続きインディアナ大学修士課程に学ぶ。ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生として、現在ドイツ・ミュンヘンにてエリソ・ヴィルサラージェに師事。

イスラエルでは、今まで2度Karen Sharet賞を受賞。大学在学中には、AMSA世界ピアノコンクール(アメリカ・シンシナティ)を始め、コシチュエシコ財団ショパンコンクール(アメリカ・ニューヨーク)、ミエチスラフ・ムンツコンクール(ニューヨーク)で第1位を受賞。最近では、イタリアのカントゥー市国際ピアノ協奏曲コンクールで第1位・グランプリ、そして2004年開催の第2回仙台国際音楽コンクールで第3位入賞を果たした。

ナミロフスキーの演奏は多くの聴衆を魅了し、批評家からも多大なる賞賛を得ている。スプリングフィールド交響楽団(アメリカ・マサチューセッツ州)とのショパンのピアノ協奏曲第1番の演奏は「非の打ち所のないテクニックと、魅惑的でしかも芝居がかったところのない演奏で聴衆を魅了した。」(ユニオン・ニュース紙)と評された。またヘラルド紙(アメリカ・コネチカット州)は、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番に対して「美しく均整のとれた詩的な演奏で、時に哀調的であった」と非常に高く評価している。

これまでに仙台フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、ニューブリテン交響楽団(コネチカット州)、ミハイル・ジョラ・フィルハーモニー交響楽団(ルーマニア・バカウ)など世界各国のオーケストラと共演している。

そして数多くの室内楽音楽祭に参加、またカーネギー・ホールのワイル・リサイタルホール(ニューヨーク)でのコンサート出演をはじめ、アメリカ、スペインやイスラエル国内でソロ活動にも積極的に取り組んでいる。今年は日本とドイツでのリサイタルツアーや、ミラノ(イタリア)、モスクワにおいてオーケストラとの共演が予定されている。

ユージン・イストミン、ウラディーミル・ヴィアルド、パーヴェル・ネルセンアン、ヘスス・アンヘル・ロドリゲスなどによる数多くのマスタークラスにも参加している。

## 仙台ニューフィルハーモニー

1981年9月、約20名の弦楽器奏者で創立された仙台ニューフィルハーモニーも24年目を迎えて着実に力をつけ、現団員約90名の成熟しつつあるオーケストラとして益々発展を続けている。

創立当時より、大きな目標の一つに「自力演奏を目指す」ということがあり、そのために、団員一人一人の努力は勿論、演奏指導、運営に携わってきた役員・係も含め、種々な困難に対処してきた。

現在では仙台市内はもとより、宮城県内からも力のある奏者の参加を求めながら編成の充実を目指した結果、ほぼ目標に近い団員数に達しつつある。また、ここ14~15年は優秀な客演指揮者の指導を受ける機会にも恵まれ、音楽への取り組み方も向上し、高い評価を受けるまでになった。

仙台ニューフィルハーモニーでは、現在、団員を募集しております。募集パートは、Violin, Viola, Cello, Trumpet です。問合せは以下まで。

●仙台ニューフィルハーモニー事務局(山路方:022-234-0701)

●仙台ニューフィルハーモニー HP(<http://sendainewphil.client.jp/>)